

山梨県高P連通信

発行所／山梨県高等学校PTA連合会
発行責任者／辻 宏幸 甲府市丸の内3-33-7 教育会館内
TEL(055) 2006-7290 FAX(055) 2006-7133



ごあいさつ
県高JY連会長
辻 宏幸

各加盟校の問題点については、その多くは、共通のものです。県高P連を通じて、加盟校同士が意見交換を行い、コミュニケーションを深めることに

よつて、これから県立高校の在り方を検討していきたいと思います。最近ではPTA活動について小中

今年度、高P連会長を拝命しております。甲府東高等学校所属の辻と申します。会員の皆様には、日々から県高等学校PTA連合会の活動や各単Pの活動に対しご理解、ご協力を頂きました、大変感謝いたしております。

スピード化が進んでいます。それと機械を同じくして高等学校の活動も急速に活発化していることを感じています。

2026年までにすべての高等学校においても取り入れられる、コミュニケーションスクールについてもPTAとしての関わり方の多様化を考えられる中、学校間の情報共有が重要となり、学校との連携の仕方を共有すべきと考えます。PTAは、3年間でほぼすべての生徒や保護者を入れ替わる組織ではありますが、各学校の運営方針を十分に検討した上で協力をを行い、全

◆令和6年度役員◆

顧問	中込 光司
常任相談役	金井 一憲 小宮 広督 飯嶋 明子 山岸 和仁 吉澤 茂樹 手塚 俊樹
会長	辻 宏幸(甲府東)
副会長	清水 秀樹(北杜) 前田 武史(甲府昭和)
	深澤公一郎(巨摩)
	今井扶佐章(笛吹)
	高村 明成(吉田)
	橋田 浩(校長会)
常任理事	早川 洋(蘿崎) 奥山しのぶ(甲府南) 望月亜莉沙(身延)
	丹澤 修(日川)
	佐藤 義栄(都留)
	山口 友江(盲)
	高見澤圭一(校長会)
	小林 太郎(校長会)
監事	丸山 誠(甲陵) 渡邊 守(富士河口湖)

(以上敬称略)

令和六年度
高P連定期総会

令和六年度山梨県高等学校ＰＴＡ連合会総会が、去る五月二十四日、山梨市民会館ホールにおいて、山梨県教育委員会教育長様をはじめとする多くの来賓の皆様のご臨席のもと、県下加盟校から代議員百三十名の参加を得て、開催されました。

金井一憲会長の挨拶の後、「来賓の降旗友宏教育長、橋田浩高等学校校長・協会会長から、祝辞をいただいたくとともに、県教育委員会より金井会長をはじめ、県連の役員七名に感謝状をいただきました。

続いて議事では、令和五年度の事業・決算承認、令和六年度の役員承認認に続き、令和六年度の活動方針、令和六年度の事業計画及び予算案が原案どおり決議されました。

令和六年度各種表彰

金井一憲(前県連会長)
小宮
広督(前県連副会長)

יְהוָה יְהוָה יְהוָה יְהוָה יְהוָה

開東高等学校
選舉委員會
飯嶋 明子(前県連副会長)
山岸 和仁(前県連副会長)
吉澤 茂樹(前県連副会長)
手塚 俊樹(前県連副会長)
小林 智(前校長協会会長)
県立農林高等学校 P.T.A

◆県教育委員会表彰

金井一憲(甲府座)
小宮広督都留
飯嶋吉澤山岸
手塚明子(斐崎工業)
和仁(甲府西)
茂樹(白根)
俊樹(日川)
智校長(会長)

(以上敬称略)



旧役員の皆様

体の意見集約や要望を、県・教育委員会、関係機関へスマーズに行なうことが出来る組織であります。 その一方として、学校現場の働き方改革も同時に行われ、健全な教育現場を実現することにより生徒や教員の安全確保が今以上に徹底すると思います。 その点からも学校の考え方や感じ取りが注目される年のスタートと言えるのではないかでしょう。改革をはじめすべてにおいて今まで以上にための一助をPTAが担っていくこ

生徒や学校での相談事も高P連事業局にて伺い、解決に向けたアドバイスなどをを行う場合もあります。
自身で解決できないことなどあるときは、連絡いただければ対応方法を一緒に考えていきます。個人情報を持った場合には、情報共有等は行います。
今後も皆様と共に歩む決意です。よろしくお願いいたします。

第70回関東高P連大会の報告

全体会の報告

高P連副会長 清水 秀樹

第七十回関東地区高等学校PTA連合会大会千葉大会が、去る七月二十三日から二十四日まで、千葉県の幕張メッセで盛大に開催されました。

埼玉、群馬、茨城、山梨、神奈川、千葉の各県の高等学校、中高一貫校、特別支援学校のPTA会員が一堂に集い、研修と交流を行った大イベントです。

初日は、全大会として大会場にて一千人を集めた全体会が開催されました。



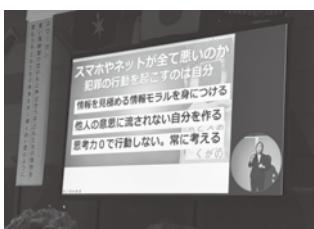
高校生の情熱とエネルギーをひしひを感じる素晴らしい瞬間でした。

次に披露されたのは、NPO法人おやじダンサーズのダンス、このあつまいにおやじダンサーズ?と最初は思いましたが、この団体はもともと生涯教育授業から生まれたとのことで、いくつになつても学び、成長しようとする姿勢に接することができました。

技術はプロとはいかながら、有名曲に合わせて踊る様は、会場をどり盛り上げて、人の熱意の素晴らしさを感じました。

記念講演は、「高校生の問題行動」というテーマで、一般社団法人スクールボリス理事の佐々木成三氏が講演されました。

元埼玉県警察でデジタル捜査班の班長を勤めてきた経験と、テレビのコメンテーターで磨かれた話術はとても秀逸でした。



まずアトラクションとして、千葉県幕張総合高等学校のシンフォニックオーケストラ部の演奏がありました。この部は、昨年度に第七十二回全日日本吹奏楽コンクール金賞を受賞している全国レベルの実力派、踊りながら演奏するという困難な環境にも関わらず、きちんとした演奏を披露されました。笑顔を絶やさず、完全燃焼された清々しい様には、とても感動しました。

分科会の報告

高P連副会長 高村 明成

前日の全体会、記念講演に続き大会二日目は、幕張メッセの国際コンペティションホールにて、5つの分科会が行われ私は第2分科会の「進路指導活動をするためのPTA活動について」に参加しました。

最初の提案発表は、本県代表の県立

蔚崎高等学校による「蔚崎高校PTA活動と進路指導行事の支援」です。

蔚崎高校では、「模擬試験」の実

施主体を十

年ほど前よりPTAで担ってきました。しかし、実態は主催とは名ばかりで教員のみで行われてきており、教員の負担の増大は経年の課題でした。そこでPTAでは、働き方改革を踏まえ、模擬試験の様子を実際に見て進路について親子で話すきっかけづくりにすること、保護者と教員との負担の分け合い」を目標に、昨年度より「模擬試験に対するPTAの協力」を実施しました。具体的な活動は、試験日の横断歩道での交通安全指導や、あいさつ運動、問題の仕分けや会場での問題配布及び回収並びに集計などです。個人情報に触れる部分は避けて行われています。高校生とともにすると我が子の進路実現に向けての参考画は難しくなります。そんな中で、この取り組みは保

護者が子どもたちと、学校及び勉強についての共有ができる貴重な機会となります。教員の負担軽減と、家庭での進路に対する意識の向上という目標が達成されており、PTAの活動として学校との連携がなされた有意義な取り組みであると感じました。蔚崎高校では、進路説明会や宿泊学習に対する補助も課題として検討されており、柔軟で建設的なPTA活動に尽力を受けました。

次の発表は、神奈川県立舞岡高等学校によります、「マイタケプロジェクト」(マイタケ竹林活用プロジェクト)へ変化に対応する持続可能なPTA銘を受けました。

舞岡高校とともに明確な目標設定とその共有がこの事業の実現と成功に結び付いていると思います。

「PTAは生徒、学校、保護者にとって有用であり、常に目標から逸れることなく時代に合わせて刷新を繰り返しながら進んでいかなければなりません」と考えています。

私は講演を通して、大きな気づきを得ることが出来、明確な方向性を考えることが出来ました。今後は、今回の学びを出来ただけ周知、共有しながら明確な目標達成のため実践していくたいと思います。

舞岡高校は「伝統や役割に固執する」となく、その時代の社会の状況に合わせて変化しながら活動を続けていくこと

両高校ともに明確な目標設定とそ

の共有がこの事業の実現と成功に結

び付いていると思います。

「PTAは生徒、学校、保護者にとって有用であり、常に目標から逸れる

ことなく時代に合わせて刷新を繰り

返しながら進んでいかなければなら

ない」と考えています。

私は講演を通して、大きな気づきを得ることが出来、明確な方向性を考えることが出来ました。今後は、今回の学びを出来ただけ周知、共有しながら明確な目標達成のため実践していくたいと思います。

舞岡高校は「伝統や役割に固執する」となく、その時代の社会の状況に合わせて変化しながら活動を続けていくこと

両高校ともに明確な目標設定とそ

の共有がこの事業の実現と成功に結

び付いていると思います。

「PTAは生徒、学校、保護者にとって有用であり、常に目標から逸れる

ことなく時代に合わせて刷新を繰り

返しながら進んでいかなければなら

ない」と考えています。

私は講演を通して、大きな気づきを得ることが出来、明確な方向性を考え

ることが出来ました。今後は、今回の学びを出来ただけ周知、共有しながら明確な目標達成のため実践していく

たいと思います。

舞岡高校は「伝統や役割に固執する」となく、その時代の社会の状況に合わせて変化しながら活動を続けていくこと

両高校ともに明確な目標設定とそ

の共有がこの事業の実現と成功に結

び付いていると思います。

「PTAは生徒、学校、保護者にとって有用であり、常に目標から逸れる

ことなく時代に合わせて刷新を繰り

返しながら進んでいかなければなら

ない」と考えています。

舞岡高校は「伝統や役割に固執する」となく、その時代の社会の状況に合わせて変化しながら活動を続けていくこと

両高校ともに明確な目標設定とそ

の共有がこの事業の実現と成功に結

び付いていると思います。



参加者の集合写真

第73回全国高P連大会開催される！

全体会の報告

高P連副会長 深澤 公一郎

（個人表彰）
前高P連会長 金井 一憲様
前高P連副会長 小宮 広督様
（団体表彰）白根高等学校PTA様



去る八月二十二日（木）～二十三日（金）の二日間「歴史の町で変革を！」～新たな時代が目に入らぬか～をメインテーマに第七十三回全国高等学校PTA連合会大会が茨城県にて開催されました。

北海道から沖縄まで、全國から保護者・学校関係者約六千人が集い、ものすごい活気と熱気で座り見が出るほどの大会となりました。

全体会では全国高等学校PTA連合会の田名部智之会長から、「急速な社会の変化に教育現場も対応していくなければならない」子どもたちが未来に必要なスキルを身につけるためにデジタル環境の整備や教員のICTリテラシー向上が急務である」という時代に合わせた活動の必要があると話されました。

続いて、文部科学大臣、茨城県知事、水戸市長の式辞があり、その後昨年度の各種PTA活動に関わられた功労者の皆様への表彰がありました。本県からの表彰者は次の三名です。

した変革への取り組みをユーモアあふれる口調で話されました。

その育成結果が実を結び、二〇二一年度の一所ノ関部屋は部屋別勝率が全四十四部屋中で一位の成績となりました。時代に合わせた変革に成果が出た瞬間に会場中が拍手となりました。

変革は一人では難しいです。PTA活動においても「すべては子どもたちの笑顔のために！」という気持ち忘れずに、身近な仲間と手を合わせて学校を盛り上げていけたら最高ですね。

これからも楽しんでいきましょう！

前半の講演では、「PTA問題だけ」のような錯覚を覚え、「だから不要」という乱暴な結論に達しがちな状況から問題点とその問題に対しても整理を行った後に向けた提案をしていました。

会議を遅くまでやっている感じがしてなんとなく大変そう。役員を担つてくれる人がいない。高P連などの巨大組織は何をしているか分からぬし本当に必要なのか。なぜ負のイメージや不透明な点が問題であり、どうしても敬遠しがちな活動と感じられてPTAは不要と飛躍的な結論に至っています。ではどうから今までの問題を整理し理解することで今後に向かうPTA活動について提案を頂きました。

一例をあげますと、会議を短くする方法として、会議前にSNSやICTを利用して意見交換を行い、事前に落としどころを考えておく。また負担とを考えるPTA活動に関しては、学級運営協議会と連携し負担軽減する取り組みを考えていくなどの提案をいたしました。

後半のグループトークでは、全く大きく変化した「PTA」という組織についてさまざまな問題や変化が生じていることを題材にテーマが絞られ講演が行われました。

茨城大会の分科会は五つの分科会で構成されており、コロナ禍を経て大きく変化した「PTA」という組織についてさまざまな問題や変化が生じていることを題材にテーマが絞られ報告し合い、小グループで解決できない問題があれば、講師や会場の参加者に問い合わせることでよりよい解決策を探し出すといった対話形式での講演でした。

私が聴講した分科会のテーマは「みんなで考えよう、これからPTA」であります。PTA不要論も聞かれるくらいさ

まざまな課題を抱えている一方でPTA活動を続けてよかつたというボ

ジティブな意見もあります。

この分科会は、前半は講演。そして後半は講師と参加者とのグループトークと大きく二つに分けた内容でした。

前半の講演では、「PTA問題だけ」のような錯覚を覚え、「だから不要」という乱暴な結論に達しがちな状況から問題点とその問題に対しても整理を行った後に向けた提案をしていました。

現在、PTAの退会・解散が増えていますが、子供たちが安全で安心して学園生活を楽しく過ごすためにPTAは必要だと感じています。

この講演を通じて、生徒数の減少や大きく変化している社会でPTAに前向きに楽しく参加してもらつたための新たな取り組みが必要だと感じました。



参加者の集合写真

法はないかなどの問い合わせがあります。したが、ある高校では入学式後の学年集会でPTA活動を動画公開するこ

なり役員を決められたとの事例があることをうかがえ、実りあるグループトークでした。

この分科会は、前半は講演。そして後半は講師と参加者とのグループトークと大きく二つに分けた内容でした。

前半の講演では、「PTA問題だけ」のような錯覚を覚え、「だから不要」という乱暴な結論に達しがちな状況から問題点とその問題に対しても整理を行った後に向けた提案をしていました。



子どもたちの成長を見守つて

山梨県高等学校校長協会会長

橋田 浩

平成二十七年十一月に取りまとめられた中央教育審議会答申を踏まえ、平成二十九年には「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正が行われ、学校運営協議会を設置して「地域とともにある学校」への転換を図るため、少子化が進むなか、生徒がスポーツや文化芸術活動に継続して親しみができる機会を確保するためにも、部活動の改革は必要です。

また、教員の働き方改革や教員確保の面においても、部活動の在り方に関する議論を避けては通れません。

先の「コミュニティ・スクールへの移行とともに、保護者の皆様の御意見をいただきたい」ところです。

さて、この夏の全国高等学校総合体育大会（インターハイ）や全国総合文化祭等においては、県内高校生の活躍が多数見られました。

来年度の全国高等学校総合体育大会中国大会2025のテーマは、「開け未来の扉」だと聞きました。

スポーツの世界のみならず、未来の扉を開くのは、若き子どもたちの力です。教職員・保護者それぞれが、各自の立場で、子どもたちの成長を温かく見守っていきましょう。

最後になりますが、保護者の皆様の立場で、子どもたちの成長を温かく見守つていきましょう。

③ 教職員の任用に関する事項について、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べることができます。

④ 学校運営協議会の主な役割は、① 校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること、② 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べることができます。

⑤ 教職員の任用に関する事項について、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べることができます。

⑥ 各校の委員には、保護者代表としてPTA役員が加わることが多いと思

てほしいと思います。

（委員）保護者代表・地域住民
地域学校協働活動推進員 など



学校運営への必要な支援に関する協議

第3回高P連活動事例発表会を開催！

う取組の報告でした。
施しPTA役員が主体的に協力するとい

去る十月二十七日（日）、高P連主催の『第3回高P連活動事例発表会』が県立甲府東高校を会場に開催され、昨年と同数の六十二名が参加しました。

開会行事の後、第一部の【事例発表】では、次の「校による発表がありました。

今回の「校による発表は、いざながれも七月に千葉県で開催された第七十回関東地区高等学校PTA連合会大会千葉大会で発表されたものと同じです。

（一）身延高校 発表者…望月華莉沙 PTA会長 テーマ…



・意見交換会はとても良かつたので、今後も継続して欲しい。

① 死亡共済金 最大300万円

② 後遺障害共済金 障害の等級ごとに

10万円～300万円

③ 医療共済金

最大150万円

④ 歯牙欠損共済金 特別死亡共済金 最大150万円

5万円

⑤ 特別給付金（香料）

5万円

⑥ 過去5年間の給付件数は平均する

と年間146件です。

○ 学校の管理下において生徒が受けた災害で、独立行政法人日本スポーツ振興センターから災害共済給付金を受けた災害。

人日本スポーツ

振興センターか

ら災害共済給付金を受けた災害。

人日本スポーツ

振興センターか

う取組の報告でした。
続く第一部の【意見交換】では、全員が8つのグループに分かれて、活動終了後、第二部の【事例発表】では、次の一校による発表がありました。

今回の【事例発表】では、次の一校による発表がありました。

（二）身延高校 発表者…望月華莉沙 PTA会長 テーマ…

【意見交換会の様子】

意見交換会の様子

意見交換会の様子